

# 業務用米生産の効率化による地域水田農業の発展を目指して

## 1 取組内容及び目標

### (1) 経営の概要

○経営主体（事業実施主体） 杉山 裕一郎

○所在地 東伯郡琴浦町

○経営概要

- ・ 水稲栽培（酒米 11.0ha、うるち米 10.0ha 計 21.0ha）による専業農家（認定農業者）。
- ・ 自己所有地 7.0ha、借地 14.0ha

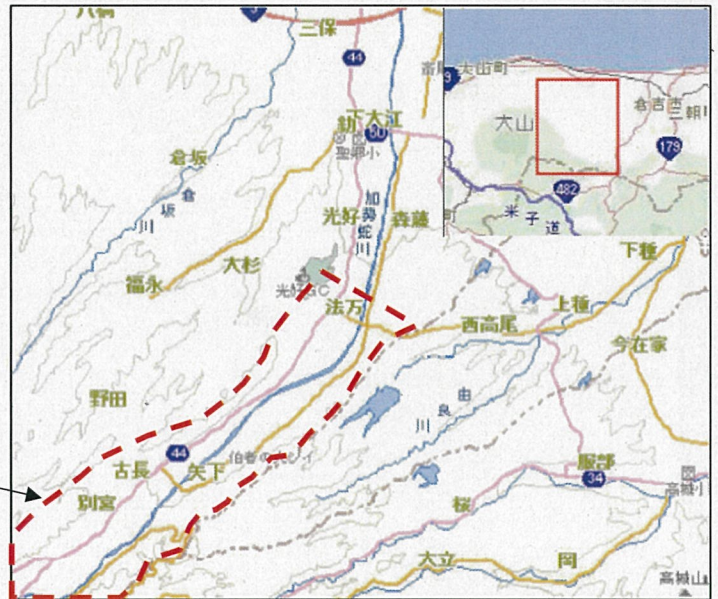


### (2) 地域の特徴

水稲の栽培地域は、琴浦町にあり、稲作に恵まれた地にある。

○地形 水田は、標高 100m～250m の河岸段丘や扇状地に位置し、日照・通風も良好である。

○水利 加勢蛇川の上～中流部にあり、湯水や夏期の高水温の心配もない。



### (3) プランの取組内容・目標

前回プラン（2015年～2017年）では、酒米需要の増大に対応するため、酒米の栽培面積拡大（目標面積：酒米 13.0ha→16.3ha、経営全体 13.6ha→17.0ha）とそれに伴う生産設備の増強・効率化を図り、酒米の安定した供給が実現した。

一方、この地域でも農家の高齢化とリタイアが進み、予想を上回る規模で耕作の依頼が増えている。このため酒米の需要を上回るペースで耕作（経営）面積が増えており、酒米以外の水稲品種の導入が課題となってきた。

そこで、実需とのミスマッチが指摘されている業務用米に着目し、リタイア農家（農地）の受け皿として、業務用米の栽培面積（現在 9.0ha）を3年後には 5.2ha 増の 14.2ha、水稲全体では 25.2ha に拡大したい。

これを達成するため、次の機械等の導入が必要である。

年度	導入機械等 (数量)	仕様等
2019年	トラクター (1) (追加)	50馬力級、ロータリー2.0m
2020年	コンバイン (1) (更新)	4条刈、75馬力
2021年	ドローン (1) (更新)、 乾燥機 (2) (追加) 乾燥機付帯機器 (追加)	ドローン (積載量 9kg) 乾燥機 (30石、45石)

## 2 背景

### (1) 中食・外食の増加と米生産のミスマッチ

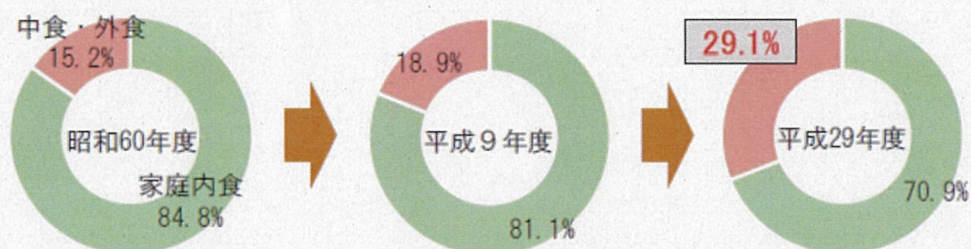
農林水産省の資料によると、主食用米の全国ベースの需要量(29/30年740万トン)は一貫して減少傾向にあり、最近は人口減等を背景に年10万トン程度と減少幅が拡大している。

ところが、世帯構成の変化(単身世帯の増加)、女性の社会進出(共働き世帯の増加)等の社会構造の変化により、食の簡便化志向が強まっており、米を家庭で炊飯する割合が年々低下する一方で、中食・外食の占める割合は年々増加傾向にあり、近年では約30%に達している。

他面、主食用米全体の需給は均衡している中で、産地においては、食味評価特Aランクに象徴されるように、高価格帯中心の一般家庭用の米を生産する意向が強い一方、買い手においては、3割を占める低価格帯中心の中食・外食向けなどにも対応した米生産へのニーズも高く、ここにミスマッチが生じている(下図)。

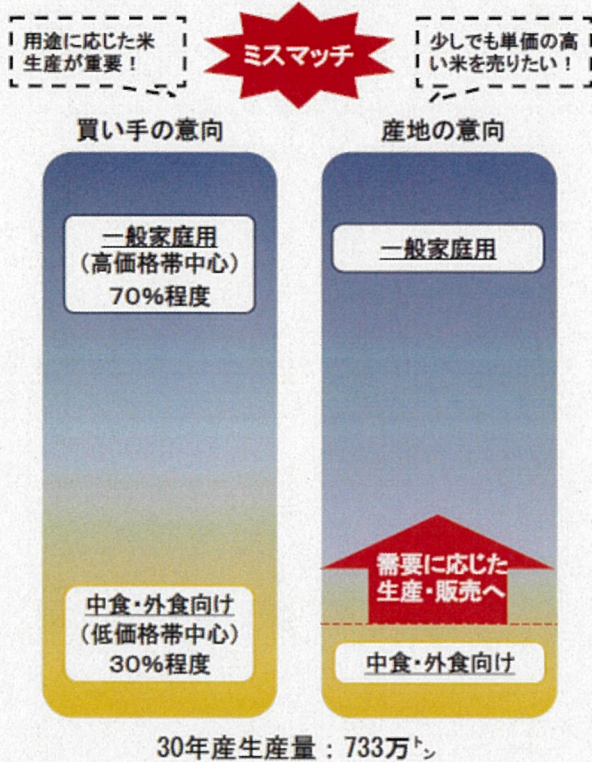
実際に、弊社にも取扱事業者から増産の要望が寄せられている。

【米消費における家庭内及び中・外食の占める割合(全国)】



(出典:「米をめぐる関係資料」農林水産省)

【買い手の意向と産地の意向のミスマッチ】



- 主食用米全体の需給は均衡している中、産地においては、高価格帯中心の一般家庭用の米を生産する意向が強い。
- 一方、買い手においては、3割を占める低価格帯中心の中食・外食向けなどにも対応した米生産へのニーズがあり、ここにミスマッチが生じている状況。



- 一般家庭用、中食・外食向け各々の需要に応じた生産・販売の取組を進める必要。  
 ( それを行わない場合には、結局、国内主食用米需要全体の一層の減少につながる。 )

—取組事例 (A市B生産法人)—

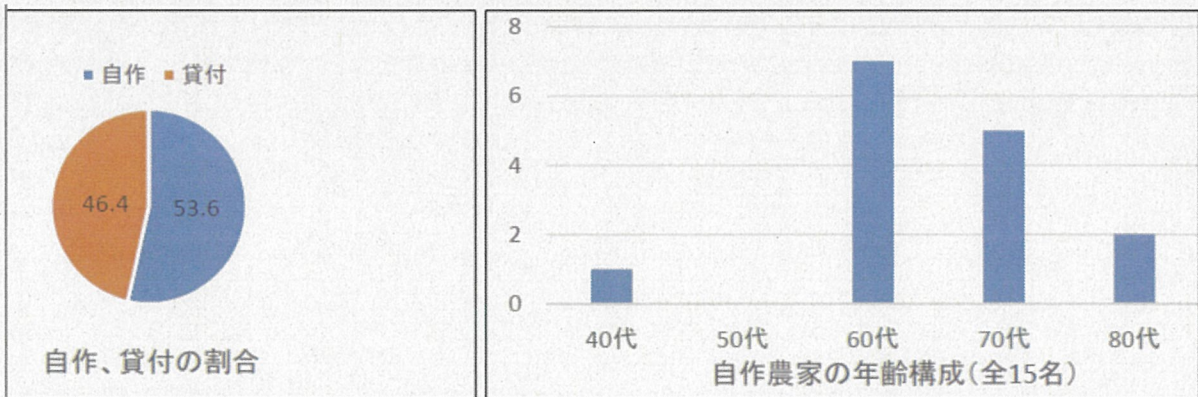
- ・ A市はブランド米の産地であるが、B生産法人は中食・外食事業者からのニーズを受け、28年産から多収品種 (あきだわら) の作付を開始。
- ・ 一般家庭用より3割多収を実現し、一般家庭用で得られる収入とほぼ同等の収入を確保。

(出典：「米をめぐる関係資料」農林水産省)

(2) 農家の高齢化とリタイアの増加

当集落を例にとってみると、自作農家は 53.6%まで減少しており、さらに年代別に分析すると、70代以上が約半数を占めている。

このため、今後10年内外にリタイアし農地を貸付に出す農家が次々と現れることが想定され、受け皿となる農業経営体が求められている。



3 生産の現状、前回プランの内容と達成状況

(1) 栽培面積 (平成30年度)

面積 ha

区分	酒米	うるち米			合計
		家庭用米	業務用米	計	
面積	11.0	1.0	9.0	10.0	21.0

(2) 前回プランの内容と達成状況

項目	プラン内容	達成状況 (H29 実績)
規模 (水稲栽培面積)	H26 13.6ha → H29 17.0ha (実績) (計画)	18.0ha
導入設備等	・トラクター (60ps) ・粃摺機 (6 インチ) ・田植機 (6 条)、育苗ハウス (4 棟)、モア	・H27 年度導入 ・H28 年度設置 ・H29 年度導入

4 目標の詳細と具体的な取組内容

(1) 目標とする栽培面積、生産量、年間販売額

区分	米用途	品種	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
栽培面積 (ha)	酒米	山田錦等	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0
		コシヒカリ	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
	うるち米	業務用米	9.0	11.4	12.8	14.2	14.2
		計	10.0	12.4	13.8	15.2	15.2
合計			21.0	22.4	23.8	25.2	25.2
反収 (kg/10a)	酒米	山田錦等	450	450	450	450	450
	うるち米	コシヒカリ	480	480	480	480	480
		業務用米	570	580	590	600	600
生産量 (kg)	酒米	山田錦等	49,500	45,000	45,000	45,000	45,000
		コシヒカリ	4,800	4,800	4,800	4,800	4,800
	うるち米	業務用米	51,300	66,120	75,520	85,200	85,200
		計	56,100	70,920	80,320	90,000	90,000
合計			105,600	115,920	125,320	135,000	135,000
販売単価 (円/30kg)	酒米	山田錦等					
	うるち米	コシヒカリ					
		業務用米					
販売額 (%)	酒米	山田錦等	100	91	91	91	91
		コシヒカリ	100	100	100	100	100
	うるち米	業務用米	100	129	147	166	166
		計	100	126	143	160	160
合計			100	107	114	122	122

<参考> 販売先：酒米は蔵元（酒造業者）、コシヒカリは直接販売、業務用米は卸業者等。

(2) 取り組みの計画と役割分担

項目	2019年	2020年	2021年	支援体制
規模の拡大	○	○	○	町
トラクターの導入	◎			県、町
コンバインの導入		◎		県、町
ドローン、乾燥機の導入			◎	県、町
雇用の拡大、人材育成	○	○	○	

注) ◎：がんばる農家プラン事業の対象、○：実施主体が自ら行う取り組み

## (3) 導入する機械・施設等の名称、数量、金額

単位 千円

導入年度	導入機械	数量	税抜価格	負担区分			耐用年数
				県 (13/30)	町 (1/15)	個人 (1/2)	
2019年度 (1年目)	トラクター 50馬力 (ロータリ 2.0m)	1	6,204	2,688	413	3,103	7
							7
2020年度 (2年目)	コンバイン 4条刈 (75馬力)	1	8,797	3,812	586	4,399	7
2021年度 (3年目)	ドローン 9kg積載	1	3,200	1,386	213	1,601	7
	乾燥機	2	3,939	1,706	263	1,970	7
	籾ホッパ、粗選機 (乾燥機附帯機器)	1式	670	290	44	336	7
	3年目計			7,809	3,382	520	3,907
合計			22,810	9,882	1,519	11,409	

## 5 業務用米の導入及び規模拡大における課題と対応策

これまで主力としていた酒米に比べ、業務用米は反収（10a当たり収量）が3割以上増え、収穫する籾の量が大幅に増加する。

このため、刈り取り、乾燥等の能力が不足し、刈り遅れによる品質低下や納期遅れ等が予想されることから、コンバインの大型化や乾燥機の増設により作業能力の向上を図りたい。

また、耕作面積の拡大に伴い、耕耘作業や防除作業に遅れが生じることから、トラクターやドローンの増強を図りたい。

ドローンについては、技術革新が急速に進んでいることから、現在の防除作業に加えて、施肥診断や追肥作業に活用できる可能性がある。

なお、育苗、籾摺り作業等は、育苗ハウスや籾摺機の導入（前回プラン）により解消されつつある。

## (1) トラクター作業〔すき込み（秋）、耕耘（春）〕

作業	現在の装備	規模拡大の影響		対応策 (導入内容)
		作業期間等 (下段：適期)	影響の内容	
すき込み	トラクター（本体） 出力 60ps ロータリー 幅 2.2m	10月中旬～4月上旬 一部未実施 (10/中旬～11/月上旬)	生育不良 ガス発生 植付け不良（欠株）	<追加> トラクター 出力 50ps ロータリー 幅 2.0m
耕耘		4月中旬～5月上旬 (4/中旬～4/下旬)	田植え時期の遅れ	

## (2) 刈取り作業

現在の装備	業務用米導入の影響		対応策 (導入内容)
	作業期間等	影響の内容	



防除作業					■	■	■						
					■	■	■						
					■	■	■	■	■	■	■	■	■
刈取り 乾燥作業								■	■	■	■		
								■	■	■	■		
								■	■	■	■	■	■

上段：適期、中段：現状、下段：規模拡大後（対応策がない場合）